

科 目		必・選	担 当 教 員		学年・学科			単位数	授 業 形 態				
日本史 (Japanese History)		必	道明 熙		2 年生 電気情報工学科			2	通年 週 2 時間				
授業概要		幕末から現代に至るまでのいわゆる日本近代・現代史を系統的に学習する。											
到達目標		1 この時期の日本史の基本的流れについて政治・経済・社会の三側面から理解を深める 2 近代日本における科学技術の受容について理解する。 3 2 1 世紀の世界の中での日本のあり方を考える。											
評価方法		年 4 回の定期試験70%、授業中の課題（提出物など） 30%で評価する											
教科書等		日本史A（三省堂） プリント等											
内 容										学習・教育目標			
第 1 週	幕藩体制の成立と鎖国									A			
第 2 週	江戸時代の朝鮮・琉球・蝦夷地									A			
第 3 週	蘭学の発達と近代産業のめばえ									A			
第 4 週	幕政・藩政改革と雄藩のおこり									A			
第 5 週	1 8 世紀後半から 1 9 世紀にかけての世界と日本									A			
第 6 週	黒船の来航と日本の開国									A			
第 7 週	尊皇攘夷から倒幕へ									A			
第 8 週	統一国家の形成と富国強兵									A			
第 9 週	四民平等と文明開化、明治初年の外交									A			
第 1 0 週	自由民権運動の展開									A			
第 1 1 週	大日本帝国憲法の制定									A			
第 1 2 週	条約改正と朝鮮問題、日清戦争と三国干渉									A			
第 1 3 週	日清戦争後の社会－立憲政友会の成立、日英同盟									A			
第 1 4 週	日露戦争と朝鮮の植民地化									A			
第 1 5 週	日本の産業革命と社会運動の発生									A			
第 1 6 週	桂園時代と大逆事件									A			
第 1 7 週	第一次大戦と日本の中国進出									A			
第 1 8 週	大戦と日本の資本主義 米騒動とシベリア出兵									A			
第 1 9 週	社会運動の発展									A			
第 2 0 週	大正デモクラシー									A			
第 2 1 週	戦後強行から金融恐慌へ									A			
第 2 2 週	世界恐慌と日本									A			
第 2 3 週	満州事変から日中全面戦争へ									A			
第 2 4 週	上海から南京へ									A			
第 2 5 週	アジア太平洋戦争へ									A			
第 2 6 週	大東亜共栄圏の実態									A			
第 2 7 週	戦場からの手紙									A			
第 2 8 週	戦時下の国民生活									A			
第 2 9 週	ポツダム宣言の受諾と日本の敗戦									A			
第 3 0 週	日本国憲法の成立とその後の日本									A			
(特記事項)			JABEE との 関 連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	G	h
			本校の学習 ・教育目標	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
			◎										

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつになります。）

ガイドンス：日本史

[1]第1週～第4週

- ①近世の幕藩体制の概略を学習する。
- ②幕府や藩と、朝鮮や琉球王国、それに蝦夷地との関係を学ぶ。
- ③新しい時代の息吹としての蘭学や経済の発展を学ぶ。
- ④幕政改革や藩政改革をみる中で、幕末の雄藩の台頭を学ぶ。

[2]第5週～第12週

- ①19世紀後半のアジア諸国は、欧米諸国の植民地化の危機に瀕していた。日本もその例外ではなく、黒船の来航がそのことをあらわしていた。黒船の来航により、江戸幕府の時代は終わり、どのようにして近代国家が形成されていくかを学習する。
- ②近代の日本は、富国強兵をめざして国家形成を進めた諸政策を学習する。
- ③やがて天皇主権の明治憲法が制定される。その過程を、国民の側からわき起こった自由民権運動の展開をもふまえて学習する。
- ④欧米諸国の圧力をうけつつ、東アジアのなかでは、日本と清国と朝鮮はそれぞれの道を歩むこととなる。その重要な分岐点が日清戦争である。この戦争に至る過程やその後を学習する。

[3]第13週～第20週

- ①19世紀末から20世紀初めの世界は、いわゆる「弱肉強食」の帝国主義の時代。日清戦争とさらに大国ロシアに勝利した日本のその後を、国内の政治状況の変化や日本と朝鮮との関係Kで学習する。
- ②紡績業や製糸業の発達、さらには重工業部門にもふれつつ日本の産業革命を学ぶ。また当時の日本の労働者のおかれていた状態や社会運動の動向を学習する。
- ③第一次世界大戦を契機としてさらなる中国への進出と、日本資本主義の発展について学ぶ。
- ④資本主義の発展とともに都市化はさらに進み、サラリーマンなどの都市中間層や民衆が政治を動かす一つの勢力として登場する。それらを背景とした日本の民主主義、いわゆる大正デモクラシーについて学ぶ。

[4]第21週～第30週

- ①第一次大戦中にバブル的に急成長した日本資本主義は、その後慢性的な不況から銀行の取り付け騒ぎ、さらには世界恐慌にまきこまれる。当時の産業界や人々の暮らしはどうなったかを学習する。
- ②不況の中で、その打開の道を、満州からさらに中国への侵略戦争へと広げていったことを学習する。
- ③日中戦争の長期化のなかで、日本はさらに東南アジアへも侵略を広げ、そのことがアメリカ等ともさらに戦争を拡大することになったことを、第二次世界大戦という世界史的視点のなかで学習する。
- ④15年にわたる戦争のなかでの、国民や兵士、さらに侵略された人々の生活についても学習する。
- ⑤敗戦後日本は占領され、民主的な諸改革がおこなわれる。そしてその後の日本の歩んだ道を概観する。